

1 前年度 評価結果の概要	◎ 学力の向上：自己選択・自己決定の場面を設けた活動の継続、授業と連動した家庭学習への変換、読書習慣の形成・読書意欲の喚起 ◎ 豊かな心の育成：学年人権教育の計画的運用（多文化理解・違いの許容等）、いじめ防止対策の充実（いじめアンケートから教育相談アンケートへの変換）、教育相談週間の効果的活用 ◎ 健やかな体作り：行事と授業の連動及びスポーツチャレンジへの計画的取組（年間計画の見直し、学習カードの共有）よりよい生活習慣の形成、危機回避能力の育成 ◎ 愛郷心の育成・コミュニティスクールの充実：ふるさと「鹿島」への愛着と誇りの育成、地域や外部人材を活用した体験・交流活動の計画的運用（教育課程の見直し）、学校運営協議会・PTAと協働した開かれた学校作りのさらなる推進 ◎ 働き方改革：学年協働による子どもに向き合う時間及び教材研究の時間の確保（行事の目的の明確化）、会議時間の短縮のためのシステム再構築、時間外在校等時間の上限の遵守
------------------	---

2 学校教育目標	いのち輝く 鹿島っ子の育成 ～「気づき・考え・決めて・行動！」自分たちの学校は自分たちでよりよくする（自治力の向上）～
----------	---

3 本年度の重点目標	①学力の向上 ②志を高める教育活動の推進 ③豊かな心の育成 ④健やかな体作り ⑤特別支援教育の充実 ⑥かしま愛の育成、コミュニティ・スクールの充実 ⑦教職員の指導力向上と業務改善（働き方改革）
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ○読書意欲の喚起につながる授業づくりと読書習慣の形成	○学習を振り返り、次の学びにつなげようとしている児童80% ○学年目標冊数の本を読んでいる児童80%	・算数科の活動における「自己選択、振り返り、調整する場」を設定することで、自らの学びを自律的に調整することができるようにする。 ・図書を活用した授業や図書委員会を中心としたイベントにより、図書に触れる機会を増やすことで、読書への関心を高め、自ら進んで読書に親しもうとすることができるようにする。
	○学習規律の確立 ○授業と連動した家庭学習の充実	○学校では落ち着いて勉強することができる児童95% ○1日に自分で決めた時間学習している児童80%	・きらり⑩の「やる気いっぱい進んで学ぶ鹿島っ子」の視点で自らの学習について振り返ること、児童が発言の仕方や話の聞き方などの規律を自分たちで整え、落ち着いて学習に望むことができるようにする。 ・年2回の「生活・家庭学習パワーアップ週間」の記録から家庭学習における学習時間を客観的に振り返ることで、学習時間を自ら考え調整することができるようにする。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分のよいところや頑張っているところを言える」と回答した児童85%以上 ○相手が悲しむ言葉や言い方をせず、だれにでも温かく、丁寧な言葉づかいができた児童95% ○感謝の気持ちをもって「ありがとう」と言えた児童90%	・「あつたかの木」や「やさしさの花」の取組を定期的実施することで、友達や自分の良さ・多様性を認める意識や感謝の思いを高めるとともに、認め合う経験を仕組むことで、自己肯定感の向上につなげることができる。 ・道徳科の授業を通して、「思いやりの心」や「自他の命を大切にできる心」を深めるとともに、人権集会等の人権教育を通して、互いの権利を尊重し差別を許さない実践的な態度を身に付けることができるようにする。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校が楽しいと感じている児童95% ○相手の気持ちを考えた言動できた児童95%	・課題未然防止教育として、こころのアンケート(年2回)と教育相談週間を実施し、全職員での情報共有と共通理解を図ることで、児童が安心して自分の気持ちを表現できるようにする。 ・安心・安全な学級づくりと「きらりほっとルーム」の設置運営を両立させ、関係機関(SC, SSW等)と連携した組織的な支援体制を整える。児童一人一人の心情に寄り添うことで、学校生活における心理的安全性を確保し、安定した登校ができるようにする。 ・「ぼかぼかトークカード」を定期的実施し、潜在的な不安や心情をきめ細かく把握することで、自他の大切さを認識し、相手の気持ちを考えた言動ができるようにする。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上 ○「自分のよいところや頑張っているところを言える」と回答した児童85%以上 ○友達やクラス、学校、まわりの人のために自分から進んで動くことができた児童95%	・全校共通目標「きらり⑩」に基づき、児童の良さを具体的な項目に当てはめて称賛したり、その価値付けを教室に掲示して可視化することで、児童が自らの良さを再発見して承認感を得て、学校生活への意欲を高めることができるようにする。 ・毎月の目標や「一歩一歩」を教室内に掲示し、継続的な励ましを行うことで、児童が目標に向かう過程を定期的振り返り、自信をもって夢や目標に向かって挑戦することができるようにする。 ・「あつたかタイム」での相互承認と定期的な振り返りの場を設定することで、児童が自らの良さを再発見して、自己肯定感を高めることができるようにする。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動や外遊び、徒歩通学、散歩などを行う時間が1週間で420分以上の児童97%以上。	・縦割り班活動や体育委員会との連携のもと、異学年集団活動や外遊びの充実を図ることで、異学年との人間関係を大切にしながら、進んで外遊びに励むことができるようにする。 ・体育的行事と連動した運動週間や体育学習、スポーツチャレンジに取り組むことで、運動の楽しさを味わいながら、主体的に体力向上を図ることができるようにする。 ・給食や食育指導、栄養教諭や委員会と連携することで、食の大切さや健康に良い食事について考える機会を設け、児童が好ましく、バランスの良い食事をとる習慣を身に付けることができるようにする。
	○「望ましい生活習慣の形成」 ○「安全に関する資質・能力の育成」	○誰にでも、気持ちのよいあいさつや返事をした児童95% ○避難訓練等で学んだことを意識し、安全に気を付けて学校生活を送っている児童95%以上	・年2回の「生活・家庭学習パワーアップ」週間を活用し、生活習慣を自己点検することで、望ましい生活習慣の確立を図ることができるようにする。 ・児童が自ら生活目標を設定することで、生活課題に対する改善に努めることができるようにする。 ・掲示板や全校朝会等で紹介される児童の善行をモデルとして自らの生活態度を振り返る機会を設けることで、望ましい習慣を意欲的に取り入れることができるようにする。 ・避難訓練等の安全指導を通して、災害時の危険を自分事として捉え、避難の約束に基づいた迅速かつ適切な行動をとることができるようにする。 ・集団登校の自己評価により、自分たちの登校の様子を振り返り、安全で協力した登校ができるようにする。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の設定(水又は金)や定時退勤ボードの活用による、全職員の時間外在校時間に対する意識を高める。 ・定期的に、業務の優先順位や業務の精選についての聞き取りをForms等で行い、その実行に向けた工夫(取捨選択等)を職員と考えることで、業務効率化の意識を高める。 ・年休の取りやすい雰囲気・環境作りを心がけ、目標の取得を目指す。
	○児童と向き合う時間や教材研究の時間の確保に向けた業務の効率化	○「タブレット端末活用し、授業準備や事務処理の短縮につなげることができた」職員80%以上	・月1回以上のICT通信の発行と研修を実施し、あわせてICT活用に不安を抱える職員への個別サポートを継続することで、職員の基礎的なタブレット操作技能を向上させ、授業準備や事務処理の効率化を実現する。
●特別支援教育の充実	○合理的配慮の充実とユニバーサルデザインの視点に立った指導・支援の推進 ○全職員での情報共有と校内支援体制の充実	○「配慮を要する児童への指導を工夫できた」職員90% ○児童の情報共有特別支援を各学年チームで週1回以上	・合理的配慮に関する研修や個別の指導計画に基づき、個に応じた支援を実践し、定期的な評価・改善を通して、手立てを最適化することで、児童が学習上の困難を克服し、自信をもって主体的に学ぶことができるようにする。 ・毎週の連絡会で、全職員で支援対象児童の状況を共有するとともに、学年チームや特別支援・通級担当者との緊密な連携を図り、最適な指導・支援体制を構築する。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○かしま愛の育成	○地域や外部人材を活用した体験・交流活動の充実によるふるさと鹿島を思う学習の推進	○地域の方と楽しく交流し、鹿島のよいところ・自慢を知っている児童90%	・各学年で地域の「ひと・もの・場所」を活用した授業を年間3回以上実施(校外学習、出前学習なども含む)することで、鹿島のよいところを学び、ふるさと鹿島に誇りと愛着をもつことができるようにする。
○地域連携(コミュニティスクール)の強化	○学校運営協議会・PTAと協働した開かれた学校づくりの充実	○学校運営協議会を年に3回開催し、熟議したことを学校運営に生かす。 ○管理職、指導教諭で、かんらんや鹿島公民館を月1回巡回し、情報共有を行う。	・「かしま愛」を育む体験活動を軸とした連携体制を協議し、地域資源(人材・自然・歴史)を教育課程に積極的に導入する。 ・地域との接点強化により校外での児童理解を深め、組織的な見守りや環境改善を推進し、地域全体で児童を守り育てる、安全・安心な教育基盤を構築することができるようにする。